

平成27年度北海道小学校長会 第2回 理事研修会

会長挨拶

皆様におかれては、修学旅行や水泳学習の時期を迎え、大変お忙しいのではないかと思うが、そのような中、こうして、全道より副会長・理事の皆様にご参集いただき感謝する。

早いもので1学期も残すところ3週間余りとなった。

さて、理事研修会は、総会翌日の5月12日以来となる。ここまで、道教委への要望書提出(5/15)、全連小総会(5/22)、緊急意見書提出(6・18)、道会長研修会(6/26)等、順調に進んで本日に至っている。副会長・理事の皆様のご理解とお力のおかげであり、改めて感謝を申しあげる。

本日の理事研修会では、最新の学習指導要領の状況を知るために、途中45分ほど道教委の行政説明を予定している。よろしくお願いします。

ここで、5点について情報提供を含めお話をする。

1点目は、6月19日の全連小第3回常任理事会大橋会長の話からである。

教育改革、特に学習指導要領改訂の動向への対応についてであるが、10年前、現行の学習指導要領になるときに、全連小として、各小学校の校長先生方が円滑にしかも充実した新しい学習指導要領に即した教育課程の編成実施ができるよう資料を作っていた経緯がある。今回も、調研部長を中心に検討していくことになる。

中教審教育課程企画特別部会(学習指導要領の改訂に関わって中心となって行っている部会)のスケジュールでは、平成27年4月28日に小・中・高の合同部会を開催、以後、月2回のペースで教育課程企画特別部会を開催している。

平成27年夏(7から8月)までに論点整理を取りまとめる予定である。

その後、各学校種、教科等別の専門部会で論点整理を踏まえた検討・審議を行い、平成28(来年)年5月にパブリックコメント募集となる。この時になってあわてて意見を言っても間に合わないで、それより前に情報を集めどんな意見表明をするのか検討していきたい。

その後、平成28年度中に中央教育審議会答申となる。

2点目は、過日、会長研修会でも詳しくお話ししたが、先月、財務省の諮問機関である財政制度等審議会が示した教職員定数の合理化計画に対し、北海道中学校長会、北海道PTA連合会とともに、チーム北海道としての意識をもって、全国連合小学校長会と



連動した緊急意見書を提出するという要望活動に取り組んだことである。

その結果、「経済財政運営と改革の基本方針2015」のいわゆる骨太の方針には、教職員定数の合理化が外れるという成果を上げた。

今年度の北海道小学校長会では、教育関係機関、団体が心を一つにして「チーム北海道」として協働していくことが、困難と思える目の前にある教育課題の打開に必ずやつながるのではないかと考えている。今後もチーム北海道として取り組んでいきたい。



3点目は、8月7日の文教施策懇談・各課懇談会についてである。

5月15日、道小、道中・道公教の3者で北海道教育委員会に、当時の西崎学校教育局長に「要望書」を提出した。「要望書」に対する道教委からの『回答書』はつい先日届いたところである。現在、道中とで8月7日に開催される文教施策懇談会・各課懇談会の準備を進めている。懇談会では、副会長及び理事の皆様には、提言や質問・挨拶等をお願いすることになる。どうぞよろしくお願いします。

この懇談会では、学校現場における具体的な事例や数値等のデータを示しながら、道教委との話し合いを深めたいと考えている。本道教育の抱えている課題について共通の認識に立ち、その上で、解決の方向をしっかりと協議し合うことが大切である。

6月の全道会長研修会では、各地区の要望を受けて決めた「学力向上に対する取組」「管理職他の人事交流」「広域人事」「査定昇給制度」や体力向上、いじめ防止などについて情報交流を行って、全道の情勢や取組状況について共通理解を図った。対策部の運営の下、貴重なご意見をいただき充実した成果のある会議となった。

今後も、このように各地区各校長の声やその時々状況を、アンテナを高くして把握し、各地区の活動や要望を大切に、道教委等への意見表明や要望活動に結び付けていきたい。

4点目は、道小教育研究十勝大会についてである。

今年度、全道の校長の研修の場として、教育研究十勝大会を9月11・12日に幕別町と音更町で開催する。「北の大地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校経営の推進」を大会副主題として研究の進化及び更なる発展を図ろうとしているのはご承知の通りである。

平成22年文部科学省委託 三菱総合研究所の「管理職に求められる資質能力を教員の立場から見た調査結果」によると、「教員は管理職に対して、校長の指揮権や知識、責任感などは十分認めつつも、自分たちの意欲を引き出すリーダーシップをもっと発揮してほしいと望んでいる。」という結果が示されていた。

十勝大会では、学校経営上の課題を明確にしたり、発信性のある討議内容にしたりすることで、より一層教職員の意欲を引き出し活性化するための学校経営をするための校長のリーダーシップについて論議を深める。その成果を全道各学校に還流し、北海道の子どもたちが生き生きと成長していく学校経営が広がっていくことを強く願っているところである。

本日午後から第2回分科会運営者研修会を開催する。副会長・理事の皆さんには、大会の成功に向けて全力を傾けている十勝小・中学校長会のご努力にこたえるためにも、分科会の充実と、開会式から閉会式までの完全参加をはじめ、校長としての品格をもった対応を、地区校長会の研修等の場を通じて改めて呼び掛けるようにお願いします。

5点目は、日本教育会の総会でいただき、会長研修会でもお渡しした「新しい時代の教育」の資料についてである。今回、審議官及び日本教育会事務局のご好意で、文部科学省中岡審議官の講演内容を、カラー版のデータを手に入れた。お手もとのCDに資料が入っている。何かの機会にお使いいただければ幸いである。



最後になるが、

諸富祥彦教授は、その著書の中で「教師は、①多忙さ、②学級経営生徒指導の困難、③クレームなど保護者対応の難しさ、④同僚や管理職との人間関係の難しさ、この4つの要因が複雑に絡み合って、精神的に追い込まれており、うつ病になる教師が、一般企業の2.5倍もいる」と述べ、「日本の学校の財産であった、教師と保護者の信頼関係の良さと、教師同士のチームワークの良さ、この二つの信頼関係にひびが入り始めている」と指摘している。

大人同士の信頼関係が構築されていないと子どもの教育はうまくいかない。親と教師、教師と教師は、本来力を合わせて子どもを育てるパートナーである。それぞれの学校で、教師と子どもの関係はもちろん、教師と保護者や教師同士、特に校長と教師の人間関係のよりよい構築も視野に入れ、校長としての力量を高めながら、研修していくことが大切である。

学校全体として、全ての先生の指導力を上げていくことを念頭に、教職員も含めたチーム学校が、教職員の同僚性を発揮し、校長のリーダーシップの下、学校運営が進むことが求められている。

先日、北海道へき地・複式教育連盟の幹部の方との懇談があり、現状の把握や課題について情報交流を行った。児童数が少ないために校長が一人何役もこなしているなど、厳しい教育条件が改めて明らかになったが、どの校長先生も、一人一人の子どもに思いをはせ、地域と更なる連携を目指した運動会や修学旅行の計画などを笑顔で語っていた。

まさに、学校の規模、児童数、地域などには関係なく、目の前の教育に一途に打ち込む
本道校長の熱い気概を感じ、大変感動した次第である。

本年度も、このように北海道の素晴らしい校長先生や各地区を大切にする校長会としての役割を自覚し、その活動を後退させることなく、「未来を見据えチーム北海道として進む道小」としての活動の改善と充実に向け、検討を重ねていきたい。